

博士前期課程(修士) / 助産看護学領域 / 助産看護学分野
科目コード:280012

助産実践実習 I-1(正常・継続) Midwifery Practicum I-1(Normal・Continuing nursing)

担当教員	亀田 幸枝、曾山 小織、河合美佳				
実務経験					
開講年次	1年次後期	単位数	5	授業形態	実習
必修・選択	選択	時間数	225		
Keywords	ローリスク妊産婦・新生児、妊婦健康診査、助産師外来、分娩介助、産後の母子健康診査、母乳育児支援、健康相談、継続事例				
学習目的・目標	<p>学習目的:</p> <ol style="list-style-type: none">1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において、ローリスク母子とその家族に対して、助産師としての職業倫理と女性中心のケア(尊重・安全・パートナーシップ・ホリスティック)・家族中心のケアを基盤に、各期の連続性と個性を重視した、根拠に基づく助産実践ができる。2. 様々な助産の場や人々との関わりを通じて、専門職としての役割と行動、多職種との連携等を理解し、助産師としてのアイデンティティを育むことができる。 <p>学習目標:</p> <ol style="list-style-type: none">1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象に対し、生理的経過と健康状態を促進する助産過程(観察・アセスメント・助産診断・計画立案・実施・評価)を展開し、実践できる。2. 妊娠期から産褥・新生児期まで、助産の対象を継続的・総合的に捉えて助産過程を展開し、助産実践と助産師としての役割・責務について理解できる。3. 職業人として助産師の果たすべき役割行動をとり、母子とその家族を支援するチームメンバーとして自らの助産実践の課題を明確にできる。4. 自己の助産師像をイメージし、具体的な助産観を表現できる。				
授業計画・内容					
回	内容	授業方法	担当		
	<p><u>妊娠期実習</u> 助産外来等でローリスクまたは正常経過の妊婦に対して妊婦健康診査を実施する。</p> <p><u>分娩期実習</u> 1. 正常経過の産婦の分娩期の助産診断を行う。 2. 分娩進行に伴う産婦と家族へのケアを実施する。 3. 継続事例産婦を含む産婦の分娩介助を10例以上行う。 4. 出生直後の母子接触、早期授乳、分娩想起への支援を行う。</p> <p><u>産褥・新生児期実習</u> 1. 産褥期の産後の回復を促進するケアを行う。 2. 新生児の胎外生活適応を促進するケアを行う。</p> <p><u>継続事例実習</u> 妊娠期から分娩期、産褥・新生児期まで継続して母子を受け持ち、母子の健康診査と保健相談、家族を含めた健康教育を行う。</p> <p>* 詳細は実習要項参照</p>	実習	亀田 曾山 河合		
教科書	各種講義で使用したテキスト				
参考図書等	随時紹介する				
評価指標	実習要項参照				
関連科目	助産診断・技術特論演習 I (妊娠期)、助産診断・技術特論演習 II (分娩期)、助産診断・技術特論演習 III (産褥期・新生児期・乳幼児期)、助産診断・技術特論演習 IV (ハイリスク)、助産実践実習 I-2(正常)				
教員から学生へのメッセージ	助産実習では、分娩介助だけでなく、妊婦、産褥、新生児の包括的な健康診査と助産ケアを学びます。妊娠と出産は生理的な変化の連続です。健康な状態を維持・促進し、異常を予防するケアの実践に取り組みましょう。 継続事例実習を通じて、対象を総合的に理解し、助産師としての専門性とやりがいを探求してください。				